

事例：No. 1

低コストで効率的な素材生産を行っている林業事業体の活動事例

都道府県名及び担当部署名： 北海道 釧路森づくりセンター

担当者名： 普及課 主査(木材利用) 種田広勝

1. 林業事業体名 大澤木材株式会社

2. 林業事業体の概要

- ①年間素材生産量 13,000 m³ (うち 間伐の占める割合90%程度)
- ②生産する主な樹種 トドマツ及びカラマツ (割合は70:30)
- ③素材生産に関わる作業員数 10名 (1セット5名で2セットで作業)

3. 活動の特徴

- ・ 素材生産の実施にあたっては、伐木、集材、造材の各作業工程のバランスを考慮した作業計画や機械配置を工夫することにより機械の稼働率を高めている。
- ・ 現在では、間伐を主体に安定的な事業量を確保するとともに、高性能林業機械等を組み合わせた効率的な作業システムを活用している。

4. 高性能林業機械等を活用した作業内容

①素材生産用保有機械

ハーベスタ 1台、プロセッサ 1台、グラップル 3台、フェラーバンチャ 1台、クローラートラクタ 2台、スィングヤーダ 1台、フォワーダ 1台

②主に取り入れている作業システム等

作業道(路)の作設：地形や土壌の状況にもよるが、作業道（林道以外で運材用トラックの通行が可能な道路）と作業路（フォワーダ等林業機械のみが通行可能な道路）は最小限に作設して、林地保全に心がけている。

伐倒：ハーベスタ、フェラーバンチャ、チェーンソーによる伐倒。

集材：トラクタ、フォワーダ、スィングヤーダによる集材。

造材：プロセッサ、ハーベスタによる造材。

特徴：それぞれの作業は同時に行い効率的な作業を実施。

③労働生産性：皆伐 15～20m³/人・日、間伐 10～12 m³/人・日

〔参考〕旧作業システム（チェーンソー造材・トラクタ集材）

皆伐 10～12m³/人・日、間伐 6～8 m³/人・日

④素材生産コスト（トラック運材費を除く）：皆伐 3,500円/m³、間伐 5,000円/m³

〔参考〕旧作業システム：皆伐 4,000円/m³、間伐 6,000円/m³

<間伐の生産コストは、間伐木の平均立木幹材積が 0.20m³ の場合>

5. 素材生産の低コスト化による成果と可能性

- 高性能林業機械の導入等を通じて、就労条件の向上や労働安全対策の充実が図られ、若手林業者の雇用にもつながっている。特に、高性能林業機械のオペレーターの育成には力を入れており、各種の研修会を積極的に受講させ、作業技術の向上に努めている。
- 高性能林業機械を取り入れた現行システムも軌道に乗りつつあるが、生産性を高めるためには絶えず作業方法等の工夫が必要であり、更に効率的な作業システムを検討していく考えである。

添付資料：写真



ハーベスタによる伐倒・枝払い・玉切り



フォワーダによる集材



プロセッサによる玉切り



スイングヤードによる集材